

## 自主性・自律性に溢れる生徒の育成をめざして — つながりを基軸とした生徒会活動の実践 —

高度学校教育実践専攻  
教職実践力高度化コース  
石本 康徳

実習責任教員 阪根 健二  
実習指導教員 藤井 伊佐子

キーワード：縦割り活動，兄弟学級，自主性・自律性，つながり

### 1 課題設定の理由と経緯

#### (1) 本校の概要

本校は生徒数約470名、教職員数約40名の規模校である。校区は約10kmと広く、自転車で1時間かけて登校する生徒もいる。2年前までは生徒指導困難校であり、暴力行為や授業徘徊、喫煙等を繰り返す一部生徒の指導に苦慮することが多かったが、去年度から問題行動の発生件数は大幅に減少し、落ち着きを取り戻しつつある。しかし、家庭環境や成育歴等で問題を抱える生徒の割合も高く、生徒指導は予断を許さない状況である。本校はあいさつ運動、ボランティア活動、よさこいソーラン等の生徒会活動があり、他校にはない特色ある取組が伝統として息づいている。

#### (2) 学校アセスメントの結果

2015年11月に教員、生徒会役員を対象にアンケート調査（記述も含む）を行った。

図1-1、1-2より、生徒は授業を良く聞くものの、家庭学習の習慣が身につけているとは言い難く、アセスメント期に授業を見学した際に、受動的な姿勢で学習に取り組んでいる様子が伺えた。「生徒会活動は活発である」の項目では、ほぼ全員から肯定的回答を得られたものの、「生徒会役員はリーダーシップがある」の項目で肯定的回答は4割程度にとどまっており、記述式アンケート調査からは「他者への働きか

けが少ない」、「専門委員会の活性化にはつながっていない」等の意見も多数あった。以上から、「自主性・自律性」、「積極性・リーダーシップ」に課題があることが明らかになり、また他者とのつながりについても意識が低いこともわかった。

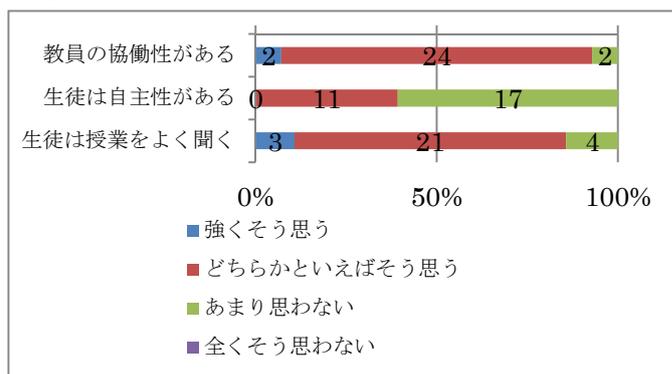


図1-1 教員対象アンケート①

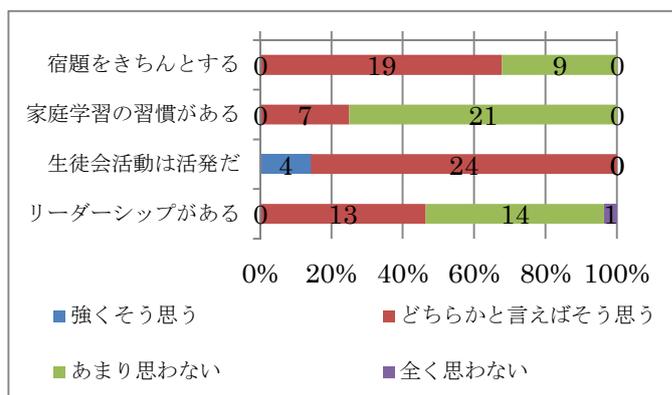


図1-2 教員対象アンケート②

#### (3) 実践研究課題設定

これまでの生徒指導上で困難を極めた状況と

比較すると、生徒、教師の双方に心のゆとりがある程度生まれてきており、新しい取組を行う下地は十分にあると感じた。落ち着き始めた学校をさらによくするため、上級生と下級生だけではなく、教師と生徒、そして学校と地域との「つながり」等、望ましい他者意識の構築を意識した取組を提案する。生徒会活動を取組の柱とし、特に「兄弟学級」での取組を中心に実践することにした。本校には以前から兄弟学級での取組があるが、運動会等の限られた機会しかその活動はない。つながりを深める中で、「生徒の自己指導力向上」のための下地を作り、今後再び学校が荒れることがあっても、生徒が主体的に行動できるシステム構築をめざす。

## 2 実践計画

準備期に教員、生徒会役員を対象にしたワークショップを行い、学校課題について共通理解を図ることに加え、実践内容を理解、共有してもらった上で実施することにした。

表2 実践計画

F W I	1	2016年1～3月	教員ワークショップ
			生徒会ワークショップ
	2	2016年4月	生徒アンケート
			対面式
兄弟学級よさこい練習			
3	2016年5月	運動会関連	
4	2016年6月	「勉強のコツ」話し合い活動	
		兄弟学級あいさつ運動	
5	2016年7月	総体壮行会	
F W II	6	2016年9月	兄弟学級あいさつ運動
			兄弟学級合唱練習
	7	2016年10月	生徒アンケート
			マナーアップリーダーズ

## 3 実施内容と結果

### (1) 学校課題フィールドワーク I (4～6月)

#### ・生徒集会

各学年代表者による決意発表のあとに生徒会役員数名と2、3年生学級委員有志で兄弟学級について説明。堅苦しい雰囲気にならないよう、全校生徒に呼びかける発表内容にした。2、3年生有志の頑張りも見られ、全校生徒の意識付け、方向付けを行うことができた。



図3-1 「兄弟学級」の意識付け

#### ・兄弟学級よさこい練習

運動会の最後はよさこいソーランを全校生で踊ることが本校の伝統であり、指導は兄弟学級を中心に行うことも特色の1つである。3年から2年、2年から1年と、教え合い活動を行うのだが、今年は指導に少し手を加え、各クラス男女別で4グループに分け、そのグループ内にリーダーを配置してなるべくきめ細かく、教えやすい雰囲気を作るように心がけた。リーダーシップを発揮し、手取り足取り指導する姿や、見本を見せて背中では伝えようとする姿が見られた。その反面、教え方に困り下級生をそのままにした状態で時間が流れていくだけだったり、活動終了後に下級生の悪口を言い合ったりする等、課題も見られた。どうすれば下級生に伝わるかと、自分に目を向けさせるような指導も必要だと感じた。



図3-2 きめ細かい指導をする上級生の姿

### ・運動会長縄練習、入場行進

長縄跳び練習を兄弟学級で行うことを新しい取組として全校生に周知し、練習場所を兄弟学級で割り振り、自然発生的に教え合い活動が生まれることを目的とした。強制して教えあうのではなく、先輩の飛び方や縄の回し方を見て、背中で教えるという方向で練習を行うこととした。3年生が2年生を応援して回数が大幅に伸びたり、朝練習終了前に3組兄弟学級が円陣を組んで団結力を深めあったりと、つながりが深まる活動が多く見られた。

入場行進も兄弟学級ではどうかと体育科主任から提案があった。同学年まとまっただけの入場だとだらける雰囲気が出てしまうが、隣に上級生、下級生がいることでいい緊張感の中練習が出来た。他者を意識し、先輩としていいところを見せようという姿勢が感じられ、後輩は先輩を何気に観察し、真似しようとする姿勢も伺えた。「縦割り活動」がより活発になり、兄弟学級での活動にも自然と取り組める状況になりつつあった。



図3-3 兄弟学級で互いを意識しあう

### (2) 学校課題フィールドワークⅠ(9～11月)

#### ・兄弟学級によるあいさつ運動

6月初旬に実施した際に、あいさつ自体に課題があることがわかり、その改善に向けてまずは9月初旬の生徒集会であいさつに関する短い劇を行い、あいさつについて考えさせる場を設けた。あいさつ運動には30名前後の生徒が集まったが、肝心の生徒会役員のあい

さつがしっかりしていないことや、時間になっても自分の都合で遅れて来たり、寝坊で来なかったりと、模範になっているとは言い難く、課題を残す結果に終わった。

「香川県マナーアップリーダーズ」という、香川県が独自で行っているボランティア活動がある。地域や関係機関と連携し、防犯やマナーアップを目的としているが、置籍校の取組としては主だった活動をしておらず、この活動をあいさつ運動とつなげることはできないかと考え、管理職と相談して地域に出向いてあいさつ運動を行う運びになった。警察や地域の方にも協力していただいて、近隣小学校に通う児童だけではなく、ドライバーに向けても「運転中のスマホ×」という掲示板を持ってあいさつ運動を行った。校区内の小学校に出向き、あいさつ運動をおこなうことによって「小中連携」だけではなく、「地域連携」にも効果が期待できる。



図3-4 地域に出向いてあいさつ運動

#### ・合唱コンクール「聴きあい活動」

実施前に各学級のパートリーダー1名を集め、兄弟学級で練習を行う意義を理解することや、司会進行は生徒に任せ、流れを考えさせることを目的とした。仲の良い者同士で座らせず、座席も兄弟学級で座らせ、最初はお互いの様子を伺い、会話をすることも消極的ではあったが、3年生が上手に後輩をリードしながら話を進めてくれた。「アドバイスをもらうことで合唱をよりよくしようと努力できる」、「ほどよい緊張感で、本番を想定して歌うことができる」、「現時

